国際的人材育成のための多言語・多文化理解ワークショップの展開

国際教育交流センターアドバイジング部門
柴　垣　　史

留学生を主な対象とした多言語・多文化理解（日本文化，世界の言語・文化講座）ワークショップは，全学の留学生が日本をより深く理解し，一般学生たちと共に言語や文化についての知識と感性を育み，さらにそこから異文化コミュニケーション力や，多文化適応力といった国際性を伸ばすことで，本学がめざす国際的人材育成に貢献することを目的としている。今年度は，新型コロナウィルス感染症の拡大による授業のオンライン化を契機に，新しいスタイルのワークショップ開発を目指すことで，リモートでの国内外在籍留学生の支援を充実させることも目的とした。

事業の実施状況とその成果は以下の通りである。

【事業実施概要】

今年度は，新型コロナウィルス感染症による影響で，対面での講座開催はできなかったが，当初の目的に従い，日本文化理解のための講座をオンラインにより下記の通り実施した。また，専門講師らの協力により，対面，オンラインおよび双方の形式で実施できるプログラムの開発に着手し，留学生，一般学生，教職員および，地域のボランティアといった参加者が多角的に学び意見交換を行うことができるよう，その環境整備をハード面，ソフト面から行った。

例年，名古屋大学の学生組織と共催している世界の言語・文化講座やイベントは今年度は開催できなかったが，彼らがオンライン上で行う交流活動の広報に協力した。

【講座実施状況】

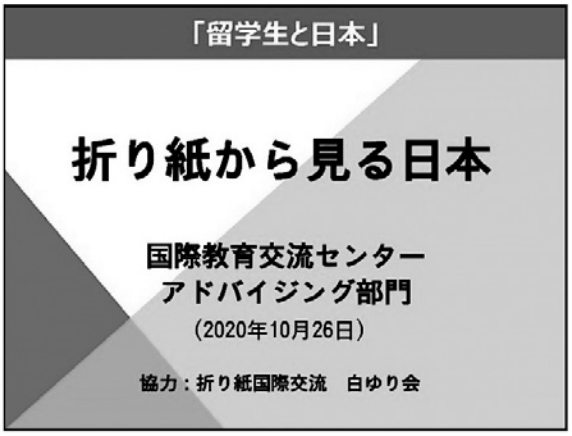
- 「折り紙」講座（10月26日，全学教養科目「留学生と日本」への協力講座），Zoom 講義担当：アドバイジング部門　柴垣　史，監修協力：折り紙国際交流白ゆり会，受講者約30人
- 「着物」講座（１月21日　事前撮影，２月12日 Zoom 講義，名古屋大学短期オンライン日本語プログラム（NUSTEP）），講師：NPO 法人ひとつなぎ駒　加藤かつ子，参加者：海外協定校受講者17人
- 「狂言」オンラインワークショップ（３月９日），講義･指導：和泉流狂言師　泉愼也，山本豪一，協力：岐阜大学日本語・日本文化センター特任助教　松尾憲暁，参加者29人（留学生６，一般学生２，東海国立大学機構教職員11，地域ボランティア４，その他国内外教育機関スタッフ３，会場見学３）

【事業成果】

オンライン講義への専門講師らの積極的な協力により，海外協定校在籍生のリモート研修と，今後も利用可能な映像資料の作成を実現することができた。また，共修や交流により国際性を伸ばし，高等教育機関における異文化理解教育として相応しい講座を開発するため，日本伝統文化の海外普及に取り組む狂言師らの協力のもと，講座内容，対象者，規模，開催形式，必要となる設備，技術，経費，人員等を，ワークショップの実践により検証した。今後，本事業で推進する留学生支援，短期研修プログラム講座の充実，地域の人々との共修による交流といったあらゆる機会で，さらに発展が期待できるモデル講座の構築ができた。

【課題と今後の展開】

今年度の各講座実施経験から，オンライン形式での講座開催のさらなる展開が期待できる一方，様々な課題も見えてきた。本事業で提供する講座は，ワークショップ形式，いわゆる講義と実践を伴う参加型の講座であるため，オンライン上での実践，実習をいかに充足させるかの工夫が必要となった。また，各オンラインツールの使用を想定した講座進行のシミュレーションは，対面での講座よりも多く必要となった。講座においては，テーマには興味があり参加しても，グループワークセッションで退出したり，ネット環境や使用機器の都合で回線が切れて参加できなかったり，オンラインツールの使用に不慣れな人がいるなど，様々な配慮と臨機応変な進行が求められた。また，

魅力的なコンテンツ配信のため，必要最低限の機材を購入したが，それらの使用のための知識習得も必要であった。講座内容の構築と準備にかかる時間や労力，提供する講座の質のバランスをいかに取るかも考慮しなくてはならない。

対面形式だけでなく，オンライン，対面＋オンライン形式での講座開講は，受講者の状況に合った参加方法の選択肢を広げることになる。距離的に，あるいは心理的に対面による講座等への参加が困難な学生でも気軽に参加できる形式の講座は，国内外の留学生，一般学生，教職員，地域ボランティアや，海外教育機関関係者等の様々な立場，年齢の他者が共修，交流する貴重な機会ともなり，各人の異文化コミュニケーション力・多文化適応力伸長のために，さらに貢献できるものとなるであろう。